

悪石島の鳥類リスト

新屋 修一^{*1}

Bird List of Akusekijima Island

SHINYA Shuichi

Abstract: The bird species of the Tokara Islands have been clarified in publications as the 2011“Bird Avifauna of the Tokara Islands, northern Ryukyu Archipelago”, but no bird list has been compiled for each island. Therefore, based on observation records and literature, I have decided to compile a bird list for Akusekijima Island, one of the islands in the Tokara Islands.

キーワード：繁殖種，越冬種，通過種，渡りルート

はじめに

屋久島と奄美大島の上に点在するトカラ列島は、九州と台湾の間にある琉球列島の一部をなし、渡り鳥の中継基地として知られている。これまでトカラ列島全体の鳥類については、1993年の鹿児島県による「トカラ列島学術調査報告書 トカラ列島の鳥相」や、2011年の森林総合研究所による「トカラ列島の鳥類相」で明らかにされているが、単独の島についてのまとまったリストは作成されていない。

そこで、これまでの筆者個人の観察記録や既存の文献等をもとに、列島の一つである悪石島で記録された鳥についてリストを作成することは意義のあることと思ひ、ここに報告する次第である。

1 悪石島の位置、面積、地形、気候、植物

トカラ列島と呼ばれる島々は、行政区は鹿児島県郡十島村に属している。北から口之島、中之島、諏訪瀬島、平島、悪石島、小宝島、宝島の有人7島と、臥蛇島、小臥蛇島、小島、上ノ根島、横当島の無人5島で構成されていて、列島の長さは約160kmに及ぶ。(図1) 悪石島は、北緯29度27分、東経129度39分に位置し、長径約4km、短径約2km、面積は7.49km²、周囲は12.64kmである(十島村、2016)。

島は南北にやや長く中央がくびれた楕円形をしており、島の最高峰御岳(みたけ)は584mの高さがある。

塚田(1991)によれば、トカラ列島は霧島火山帯

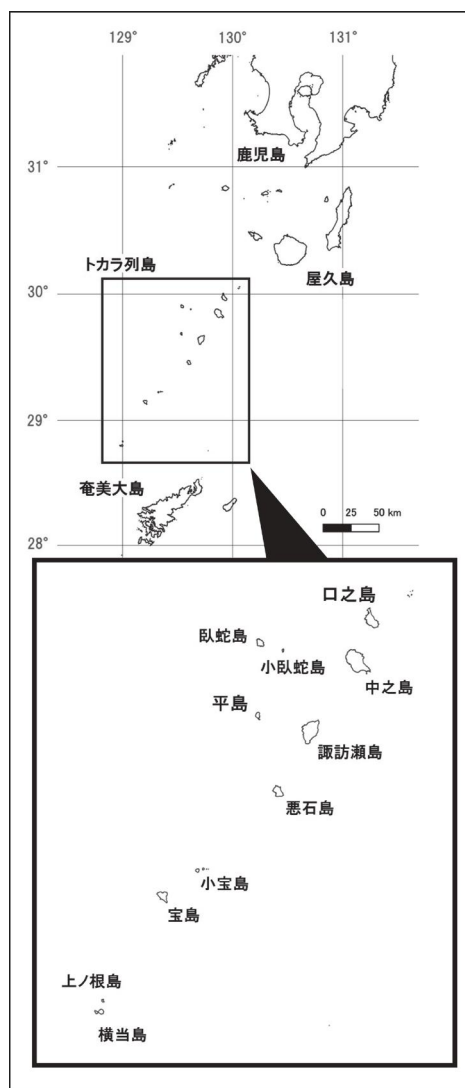


図1 トカラ列島および悪石島の位置図
国土数値情報(行政区分データ)(国土交通省)
<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-2025.html>を加工して作成

*1 鹿児島県南さつま市加世田

に属し、悪石島の地質は火山地で占められる。島には平地は少なく、海岸から約3kmの標高180mの集落の辺りと、島の北側にある標高250m～120mの牧場地となっている大峰と呼ばれる場所に平坦地があるくらいである。島の周囲は海岸からいきなり屹立する山の急斜面や数10m～100m以上の海岸崖となっていて、砂浜や干潟はない。

気候としては、亜熱帯海洋性気候に属し、年間を通して温暖・多湿な気候で、平均気温は20度を超える。また年間を通して比較的降水量が多く、雨が多い傾向にある(塚田, 1991)。

植物は、リュウキュウチク林が圧倒的に多いが、タブノキ群落、ビロウ群落、モクタチバナ群落、シャリンバイ群落などが至る所に点在している(大野照好, 1991)。集落内や東海岸に至る道路沿いには、スタジイやアカメガシワ、カラスザンショウなどの高木がまばらに生え、ウラジロフジツギやトカラアジサイ等の低木、ハチジョウウイノコズチやオトギリソウ、ホソバワダン、ツワブキ等の草本類が多く見られる(森田・丸野, 2003)。なお、2002年に島の植物を調査した森田・丸野によれば、悪石島の面積は小さいが、小宝島との間にある動物分布境界線の渡瀬線のすぐ北に位置するため、北方系や南方系の植物が混在し、島の大きさに比べて植物種は多い。また、リュウキュウチクの被覆率が高く、植生は比較的単純であると予想していたが、東南部の女神山や若内山を中心に南方系の多様な植物が生育していることが判明したとあり、これまで400種以上の植物が記録されている。

2 調査年月および調査方法

(1) 野外調査

島にいた1973年4月から1978年3月は年間を通して、1997年から2025年までの期間は春と秋を中心に島を訪れ、確認種と数を記録した。また、亜種や行動等についても適宜記録した。なお、本研究における1997年以降の調査内容の一部は、すべて日本野鳥の会かごしま県支部の機関誌「りりかけす」に報告されている。

(2) 文献・聞き取り調査

悪石島の鳥類に関する過去の文献データをできる限り収集するとともに、2012年7月の溝口文男(当時日本野鳥の会鹿児島県支部)、2025年5月の加藤銀次(長崎大学大学院)の観察記録、筆者に寄せられた詳細な情報、写真、録音も記録に加えた。なお、今回のリスト作成にあたり、既存文献に掲載された種のうち、疑義のあるものは除外した。

3 調査結果

(1) 確認された鳥の種数と新たに記録された種名
今回の調査で確認された種数は209種(表1)だった。また既存の文献では未記録である、次の35種が新たに追加された。

ヒシクイ	ツクシガモ	オシドリ
ヒドリガモ	オナガガモ	セグロカッコウ
ベニバト	オオバン	カイツブリ
ダイゼン	オグロシギ	エリマキシギ
ウズラシギ	オジロトウネン	チュウジシギ
キアシシギ	アオアシシギ	ユリカモメ
ウミネコ	ハジロクロハラアジサシ	アカオネットアイチヨウ
オオグンカンドリ	オオタカ	コウライウグイス
チゴモズ	ヒメコウテンシ	カラフトムジセッカ
アムールムシクイ	バライロムクドリ	ホシムクドリ
クロツグミ	オジロビタキ	クロノビタキ
スズメ	アカマシコ	

以上のうち、ツクシガモ、アカオネットアイチヨウ、オオグンカンドリ、カラフトムジセッカ、アムールムシクイ、クロノビタキの6種はトカラ列島での初記録でもある。

(2) 繁殖種

関ら(2011)の「トカラ列島の鳥類相」によれば、悪石島で繁殖している種、繁殖している可能性のある種は以下の20種である。

ホトギス	カラスバト	ズアカアオバト
オオミズナギドリ	ゴイサギ	ミサゴ
アオバズク	リュウキュウコハズク	アカショウビン
サンコウチヨウ	ヤマガラ	ヒヨドリ
ウグイス	イイジママシクイ	セッカ
メジロ	アカコッコ	アカヒゲ
キビタキ	イソヒヨドリ	

(3) 越冬種

1975年11月から1978年2月の冬期における筆者の観察から、以下の20種を記録した。

キジバト	ヤマシギ	トビ
サシバ	ノスリ	モズ
クイタダキ	ムクドリ	トラツグミ
シロハラ	ツグミ	ハチジョウツグミ
ジョウビタキ	キセキレイ	ハクセキレイ
ビンズイ	タヒバリ	カワラヒワ
カシラダカ	ミヤマホオジロ	

4 考察

(1) 繁殖種

筆者の観察した1977年の5月から6月下旬の繁殖期の期間の記録や島民から得られた情報、ここ15年間の観察から、通年観察されているアマツバメとハシブトガラスも繁殖している可能性が高いと思われた。さらに、2012年7月に観察・撮影されたハヤブサ、2018年7月に複数の記録のあるアマサギ、チュウサギ、コサギ、同じく2018年7月に記録されたリュウキュウキビタキも繁殖の可能性を思わせる。

なお、アカコッコとイジマムシクイについては、1977年の5月、6月に複数回声を録音しているので、すでにこの年には繁殖していた可能性が高い。

有川和則によれば、アカヒゲは悪石島においては、廃屋の蛍光灯や電灯の傘の上で巣を作り、外敵から襲われないようにしていることもあるらしい。

(2) 越冬種

チョウゲンボウとアオジは1976年、1977年冬期複数回観察され、越冬の可能性を示唆している。トビは平島では繁殖種として挙げられているが、キジバト、モズ、トラツグミ、ハチジョウツグミ、カワラヒワの5種はトカラ列島での越冬種としては挙がっていない（関ら、2011）。このうちトビは、中之島では通年記録があり（関ら、2011）、悪石島では1976年～1977年の冬期に1羽が越冬した。植田ら（2023）によれば、トカラ列島においてキジバト、モズ、カワラヒワは越冬種としての記載があり、悪石島ではキジバトやカワラヒワは少数が、またモズは2羽が越冬した。また、トラツグミは、屋久島とトカラ列島では記録はないが、奄美大島では記録があるので（植田ら、2023）、悪石島で越冬していた可能性はある。さらに、ハチジョウツグミは1977年～1978年の冬期に少数が越冬したが、屋久島、トカラ列島、奄美大島のいずれにも越冬記録がないので（植田ら、2023）、この年だけ越冬したのか詳細は不明である。なお、この越冬に関する記録は50年近く前の短期間の観察結果である。現在の状況は不明であり、是非とも新しい越冬記録が必要である。

越冬種として挙げたカワラヒワは、悪石島では1975年～1978年にはしばしば観察されたが、1997年以降2025年5月までの間で、筆者は2014年10月に1回観察しただけで観察されなくなった。なぜ渡りのルートを変えたのか説明が待たれる。

サンバは越冬種ではあるが、春と秋の渡りの時期に単独個体や、北上あるいは南下する群れをたびたび観察撮影している。有川和則や坂元勇によれば、秋には南下する大きな群れを複数回観察しているとのことで、2022年10月2日には、約400羽の群れの画像が坂元勇から送られてきた。筆者が島に滞在していた1975年から1977年の秋には、毎年約3000羽を観察している。

(3) 通過種

悪石島で繁殖したり越冬したりする49種を除けば、通過種は160種になる。このうち、1回しか記録のない56種、2～4回の記録の51種、5回以上の記録のある53種に分類して考察した。

1回しか記録のないオオグンカンドリ、シロフクロウ、バライロムクドリ、ミヤマヒタキ、クロノビタキ、キガシラシドは、本来の生息地や渡りの経路から外れて迷行して来たことが示唆される。このうち、関ら（2011）によれば、ミヤマヒタキは平島では複数回記録され、バライロムクドリは諏訪之瀬島での記録があるが、オオグンカンドリ、シロフクロウ、クロノビタキ、キガシラシドは他の島での観察例はない。

また冬期に観察される種である、ヒシクイ、マガン、ツクシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、タゲリ、チュウヒ、イスカ、マジジロタヒバリ、オオマシコ、クロジについては、悪石島での1978年以降の冬期観察記録がないために、このような結果になっていると思われる。

ダイシャクシギ、オグロシギ、エリマキシギ、ウズラシギ、オジロトウネン、ヒバリシギ、キアシシギ、アカアシシギ、アオアシシギなどのシギ類は、悪石島に干潟や砂浜、池や川・水田がないために寄留する機会がほとんどなく、1回の記録になっていると考えられる。なお1977年に声を録音して不明のままだったコウライウグイスについては、加藤銀次によって明らかになった。

記録が2～4回のオシドリ、カルガモ、コガモは、上述したように1977年以降の冬期の観察がなされていないためであろう。

ヨタカ、カッコウ、ベニバト、ハチクマ、オオタカ、チゴモズ、スズメ、イワミセキレイ、シマアオジ、シマノジコ等は、定期的に春や秋に立ち寄っていると思われる。近年数が激減しているシマアオジは、1977年5月に群れを約1週間にわたって初めて観察したが、筆者の観察以前にも野鳥の会会員によ

て確認されている。2001年と2025年にも5月に観察しているように、島には5月に立ち寄っている。また、2001年にはホオジロ科のシロハラホオジロ、コホオアカ、キマユホオジロ、アオジ、2025年には同じくホオジロ科のシマノジロ、ノジコと行動を共にしていた。

ダイゼン、シロチドリ、オオメダイチドリ、メダイチドリ、チュウジシギは、既述のように、これらの種の立ち寄る環境がないためと考えられる。

ヤブサメや、ムシクイ科のキマユムシクイ、センダイムシクイ、アムールムシクイ、メボソムシクイについては、情報不足で記録が少ないと思われた。

5回以上記録した種のうち、ムナグロ、イソシギ、タカブシギ、ミゾゴイ、アカガシラサギ、アオサギ、ダイサギ、ヤツガシラ、サンショウクイ、アカモズ、ツバメ、コシアカツバメ、コムクドリ、アカハラ、エゾビタキ、コサメビタキ、キビタキ、ノビタキ、ツメナガセキレイ、キセキレイ、ムネアカタヒバリ、アトリ、コホオアカ、シベリアアオジについては10回以上の記録があり、ほぼ毎年定期的に通過している。このことから、これらの種にとっては重要な中継地となっていると言える。その中でも、ツバメは毎回必ず記録されており、渡りコースとして必須ルートになっていると推測される。

また、キセキレイはツバメに次いで記録が多いが、6月～7月に記録がないことから、繁殖の可能性を示唆していない。

鹿児島以北では比較的珍しいとされるオウチュウ、ギンムクドリ、カラムクドリ、シロハラホオジロは10回近くの記録があり、これらの種も悪石島が大切な渡りルートの途上にあると考えられる。

南方から北上する鳥たちは、台湾や琉球諸島、トカラ列島を含む薩南諸島を経て九州本土に渡ると予想されるが、川路則友らは、1987年の「トカラ列島平島における春期の鳥相」において、中国大陸南東部沿岸から直接平島に飛来する可能性を指摘している。コルリ、ミヤマヒタキ、アカマシコ、コウライウグイスは平島で観察されたにもかかわらず、沖縄では全く記録がないとしているが、平島に隣接する悪石島でもこれらの種を記録している。また、川路ら(1987)は、沖縄県で迷鳥とされほとんど記録がないにもかかわらず平島で比較的多くの観察例があるものとして、センダイムシクイ、キクイタダキ、オオルリを挙げているが、平島同様に悪石島でもこれらの種を観察している。このうちキクイタダキは冬期に2回、オオルリは春期に7回、秋期に2

回記録している。

さらに、大陸系の亜種アカハラツバメ、ホオジロハクセキレイ、タイワンハクセキレイ、ハチジョウツグミ、シベリアアオジが記録に多く含まれることも中国大陸との関連性を示唆する点で注目されると川路ら(1987)は指摘しているが、悪石島でもこれらの亜種アカハラツバメ、亜種ホオジロハクセキレイ、亜種タイワンハクセキレイ、ハチジョウツグミ、シベリアアオジを複数回記録している。

以上のことから、川路ら(1987)は、平島を春期に通過する渡り鳥のなかには、南西諸島を北上するルートの中継地として利用するものだけでなく、中国大陸南東部沿岸から直接渡来する種も含まれることが強く示唆されたことと述べているが、渡り鳥の中には例えばオオルリ、コルリ、シベリアアオジのように、琉球列島を経ずに中国大陸から直接悪石島に渡って来る種も含まれていることが予想され大陸との結びつきが示唆される。このことは、奄美大島ではコルリは記録がなく、オオルリは迷鳥とされ、シベリアアオジは稀に見られる(奄美野鳥の会、1977)ことから裏付けられていると言える。

謝辞

このリストを作成するにあたり、同定において、小園卓馬氏(日本野鳥の会かごしま県支部)、所崎聡氏(日本野鳥の会かごしま県支部)には大変お世話になった。また、貴重な観察記録を寄せてくれた加藤銀次氏からは、同定やリスト作成上においても有益なアドバイスをいただいた。同じく観察記録を提供してくれた溝口文男氏や悪石島に関する野鳥情報を寄せてくださった西藤正直氏(日本野鳥の会かごしま県支部)、文献を提供してくださった鹿児島県立博物館主任学芸主事の上舞哲也氏にも謝意を表す。現地悪石島においては、貴重な鳥情報を提供してくれた有川和則氏や坂元勇氏、渡山敏信氏、島民の方々、調査に協力してくれた有川和哉氏や有川勝志氏、西茂久氏、悪石島小学校勤務だった林眞平氏にも謝意を表す。最後に野鳥観察に誘ってくれた元鹿児島大学農学部大学院生の横山英治氏やいつも優しく導いてくださった今は亡き元鹿児島大学農学部の迫静男氏にも深甚のお礼を申し上げる。

引用文献

奄美野鳥の会(1997) 図鑑 奄美の野鳥、奄美野鳥の会、288pp.
鹿児島県環境局環境保全課(1975) 鹿児島島の野鳥、鹿

- 児島, 15 - 242. (Ky75)
- 鹿児島県保健環境部環境管理課 (1987) 鹿児島県の野鳥, 鹿児島, 13 - 89. (Kk87)
- 川路則友・迫 静男・高良武信 (1987) トカラ列島平島における春期の鳥相, 日本鳥学会誌, 36, 47 - 54.
- 南日本新聞 (2011) 悪石島に珍鳥キガシラシト: 南さつま新屋さん撮影, 2011年5月17日付朝刊, p.1 (MN11)
- 南日本新聞 (2016) 悪石島にクロノビタキ: 加世田・新屋さん撮影, 2016年5月4日付朝刊 p. 11 (MN16)
- 森田康夫・丸野勝敏 (2003) トカラ列島悪石島の植物採集記録, 鹿児島県立博物館研究報告, 22, 88 - 99
- 日本野鳥の会 (1978) 野鳥, 379, 213 - 215. (YK78)
- 大野照好 (1991) トカラ列島の植生, 鹿児島県教育委員会編 “トカラ列島学術調査報告書,” 鹿児島県, 30 - 54.
- 迫 静男 (1991) トカラ列島の鳥相, 鹿児島県教育委員会編 “トカラ列島学術調査報告書,” 鹿児島県, 118 - 166. (Sa91)
- 関 伸一・所崎 聡・溝口文男・高木慎介・仲村昇・ファース・クリスタル (2011) トカラ列島の鳥類相, 森林総合研究所研究報告, 10, 183 - 229. (Se11)
- 新屋修一 (1978) トカラ列島および悪石島の野鳥, 悪石島小中学校, 18pp.
- 新屋修一 (2005) 悪石島の鳥, りりかけず, 104, 14
- 新屋修一 (2010a) 悪石島の鳥, りりかけず, 127, 14 - 15
- 新屋修一 (2010b) 悪石島の鳥, りりかけず, 128, 9 - 10
- 新屋修一 (2011) 悪石島の鳥, りりかけず, 131, 9
- 新屋修一 (2012a) 悪石島の鳥, りりかけず, 134, 10 - 11
- 新屋修一 (2012b) 悪石島の鳥, りりかけず, 135, 11
- 新屋修一 (2013) 悪石島の鳥, りりかけず, 141, 12
- 新屋修一 (2014a) 悪石島の鳥, りりかけず, 142, 8 - 9
- 新屋修一 (2014b) 悪石島の鳥, りりかけず, 144, 8 - 9
- 新屋修一 (2015a) 悪石島の鳥, りりかけず, 146, 8 - 9
- 新屋修一 (2015b) 悪石島の鳥, りりかけず, 148, 12 - 13
- 新屋修一 (2016) 悪石島の鳥, りりかけず, 151, 7 - 8
- 新屋修一 (2017a) 悪石島の鳥, りりかけず, 154, 12 - 13
- 新屋修一 (2017b) 悪石島の鳥, りりかけず, 155, 9 - 11
- 新屋修一 (2018) 悪石島の鳥, りりかけず, 158, 12 - 13
- 新屋修一 (2019a) 悪石島の鳥, りりかけず, 161, 14 - 15
- 新屋修一 (2019b) 悪石島の鳥, りりかけず, 162, 7 - 9
- 新屋修一 (2019c) 悪石島の鳥, りりかけず, 163, 10 - 11
- 新屋修一 (2023a) 悪石島の鳥, りりかけず, 177, 8 - 9
- 新屋修一 (2023b) 悪石島の鳥, りりかけず, 178, 14 - 15
- 新屋修一 (2024) 悪石島の鳥, りりかけず, 183, 6 - 7
- 新屋修一 (2025) 悪石島の鳥, りりかけず, 187, 4 - 5
- 所崎 聡・山元幸夫 (1999) 鹿児島県産鳥類リスト, 鹿児島県立博物館研究報告, 18, 21 - 42 (Ty99)
- 十島村 (2017) 魅惑の島々トカラ列島, 70pp.
- 塚田公彦 (1991) トカラ列島の自然景観, 鹿児島県教育委員会編 “トカラ列島学術調査報告書,” 鹿児島県, 1 - 9.
- 植田睦之・奴賀俊光・山崎優祐 (2023) 全国鳥類越冬分布調査報告 2016年 - 2022年, バードリサーチ・日本野鳥の会, 170 pp.
- 横山英治 (1975) 悪石島の鳥類, 鹿児島大学農学部造林学研究室, 10pp. (Ye75)

表1 悪石島で記録された鳥類

表中の記載方法，記載例について

- (1) ◎は写真や録音の記録を表し，○は目視や声による記録を表す。
- (2) 観察種の欄の①～⑧は以下の年月を表す。
 - ① 1973年4月～1978年3月 ② 1997年，1998年，2001年，2004年の5月
 - ③ 2010年～2019年の3月，4月 ④ 2012年7月（溝口文男） ⑤ 2018年7月
 - ⑥ 2010年～2022年の9月，10月 ⑦ 2023年～2025年の4月，5月
- (3) 引用文献の表記は下記のように備考欄に記した。
 - Kk87：鹿児島県の野鳥 (1987 鹿児島県保健環境部環境管理課)
 - Ky75：鹿児島島の野鳥 (1975 鹿児島県環境局環境保全課)
 - MN11：南日本新聞 (2011)
 - MN16：南日本新聞 (2016)
 - Sa91：トカラ列島の鳥相 (1991 迫)
 - Se11：トカラ列島の鳥類相 (2011 関ら)
 - Ty99：鹿児島県産鳥類リスト (1999 所崎・山元)
 - Ye75：悪石島の野鳥 (1975 横山)
 - YK78：野鳥 (1978 日本野鳥の会)
- (4) 年月を意味する4桁の数字と併せて備考欄に表した。例えば97.04は1997年4月を表す。なお記録が不明な年や月については、「年不明」，「月不明」と記した。
- (5) 引用文献からの過去の記録についてはすべてを記載せず，観察記録の少ない種について記した。
- (6) 悪石島での観察者は，アルファベットの太文字で下記のように備考欄に記した。
 - AK：有川和則 KG：加藤銀次 SI：坂元勇 TS：種村三郎（当時悪石島小中学校校長）
 - TT：寺原隆 WT：渡山敏信
- (7) その他，特に顕著な観察記録なども備考欄に記している。

表1 悪石島で記録された鳥類

種番号	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	備考欄（引用文献，観察者など）
1	ヒシクイ								(観察)AK07.01 写真
2	マガン	○							
3	ツクシガモ								(観察)AK24.03 写真
4	オシドリ						◎		(観察)AK25.04 写真
5	オカヨシガモ	○							77.10 雌1 個体 保護
6	ヒドリガモ						◎		
7	カルガモ	○	○	◎					
8	マガモ	○							
9	オナガガモ						◎		
10	コガモ	○					◎		(引用) Sa91 88.03
11	ヨタカ	○						○	(観察)AK23.05 写真
12	ハリオアマツバメ	○							(引用)Kk87 66 月不明
13	アマツバメ	○	○	◎	○	○	○	○	
14	ヒメアマツバメ								(引用)Se11 96.03と04.05
15	ジュウイチ	○							
16	ホトトギス	○		◎	○	◎		○	
17	セグロカッコウ								(観察)AK22.06 録音
18	ツツドリ			○			○		(引用)Kk87 66 月不明；(引用)Se11 96.04
19	カッコウ	○							
20	カラスバト	◎	○	◎	○	○	○	◎	
21	キジバト	○		◎			◎	◎	
22	ベニバト			◎				◎	(観察)AK21.09 写真
23	アオバト								(引用)Se11 96.03

表 1 悪石島で記録された鳥類

種番号	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	備考欄 (引用文献, 観察者など)
24	ズアカアオバト	○	○	◎	○	○		○	
25	クイナ			○					
26	バン	○		◎			◎	◎	(引用)Kk87 75.10 ; (引用)Se11 04.05落鳥
27	オオバン						◎		
28	ソルクイナ	○							77.11死体回収
29	シロハラクイナ		○	◎				○	(引用)Se11 96.04
30	カイツブリ						◎	◎	
31	セイタカシギ			◎			○	◎	(観察)AK25.05 写真
32	タゲリ	○							(引用)Kk87 75.10
33	ケリ								(引用) Sa91 88.03
34	ムナグロ	○	○	◎			◎	◎	
35	ダイゼン			◎					
36	コチドリ	○		◎					(引用)Kk87 75.04
37	シロチドリ	○		◎			◎		(引用)Kk87 66.03
38	オオメダイチドリ			◎					(引用)Sa91 88.03
39	メダイチドリ			◎			◎		(引用)Sa91 88.03
40	チュウシャクシギ	○		◎				◎	(引用)Se11 96.03と96.09
41	ダイシャクシギ								(観察)TS74.03
42	オグロシギ			◎					
43	エリマキシギ						◎		
44	ウズラシギ			◎					
45	オジロトウネン							◎	
46	ヒバリシギ			◎					(引用)Se11 年不明09
47	トウネン	○							(引用)Se11 75.04
48	ヤマシギ	○		◎			○		
49	チュウジシギ			◎					
50	タシギ	○		○			○		
51	ソリハシシギ		○						
52	イソシギ		○	◎			◎		
53	クサシギ	○	○	◎				○	(引用)Se11 04.05
54	キアシシギ			◎					
55	アカアシシギ	◎							(引用)Kk87 75.04
56	タカブシギ	○	○	◎				○	(引用)Kk87 75.04 ; (引用)Se11 07.07
57	アオアシシギ							◎	
58	ツバメチドリ		○	◎				◎	
59	ユリカモメ								(観察)AK22.10 写真
60	ウミネコ								(観察)AK24.01 写真
61	ハシブトアジサシ								(引用)Se11 04.09
62	セグロアジサシ								(引用)Se11 10.06
63	ハジロクロハラアジサシ			◎					
64	アカオネッタイチョウ								(観察)AK15.07 ; (観察)SI 19.04保護・写真
65	オオミズナギドリ	○	○	◎	○	○	○	◎	
66	アナドリ								(引用)Se11 09.08
67	オオグンカンドリ								(観察)AK04.07
68	カツオドリ			○	◎	○	○	○	
69	ウミウ			○					(引用)Se11 年不明12
70	ヨシゴイ								(引用)Se11 98.05~98.06
71	リュウキュウヨシゴイ	○							(引用)Kk87 75.11落鳥
72	ミゾゴイ	○	○	◎				◎	(引用)Kk87 75.05~75.06 ; (観察)AK23.05写真
73	ゴイサギ	○	○	◎	◎		◎	◎	

表1 悪石島で記録された鳥類

種番号	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	備考欄 (引用文献, 観察者など)
74	ササゴイ	○		◎			◎	◎	
75	アカガシラサギ	○	○	◎			◎	◎	
76	アマサギ	○	○	◎	○		○	◎	
77	アオサギ	○	○	◎			◎	○	
78	ダイサギ		○	◎	○		◎	◎	
79	チュウサギ	○	○	◎	○	○	◎	◎	
80	コサギ	○	○	◎	○	○	○	◎	
81	クロサギ	○		○			○		(引用)Kk87 63.03
82	ミサゴ	○	○	◎	○		◎	○	
83	ハチクマ	○					○		(引用)Se11 04.09
84	アカハラダカ			◎			◎	○	(引用)Se11 03.05 ; 10.09 1000羽以上観察
85	ツミ	○	○	○			○		(引用)Se11 03.05と04.09
86	ハイタカ		○				◎		(観察)AK21.10 落鳥写真
87	オオタカ							○	(観察)AK23.01 写真
88	チュウヒ	○							
89	トビ	○					◎		(引用)Kk87 66.03 ; (引用)Se11 05.06
90	サシバ	○	○	◎			◎	◎	
91	ノスリ	○					○		
92	アオバズク	○	○	◎		○	○	◎	
93	コノハズク								(引用)Kk87 66 月不明
94	リュウキュウコノハズク	◎	○	◎		○		◎	(引用)Se11 98.05
95	オオコノハズク								(引用)Se11 04.09
96	シロフクロウ	○							(引用)Ye75 75.10
97	ヤツガシラ	◎		◎				◎	(観察)WT24.08写真 ; (観察)AK25.03写真
98	ブッポウソウ	○		◎				◎	
99	アカショウビン	○	○	◎	○	○		○	(引用)Se11 02.08
100	カワセミ	○		◎				◎	(引用)Se11 04.09
101	チョウゲンボウ	○		◎				◎	(引用)Kk87 75.10
102	コチョウゲンボウ								(引用)Sa91 88.03
103	チゴハヤブサ	○						○	(引用)Se11 04.09
104	ハヤブサ	○		◎	◎			◎	(引用)Kk87 75.10 ; (引用)Se11 04.09
105	ヤイロチョウ								(引用)Ky75 月不明 ; (引用)Kk87 66 月不明
106	サンショウクイ	○		◎				○	
107	リュウキュウサンショウクイ	○		○				○	
108	コウライウグイス	◎							77.05 声録音
109	オウチュウ			○				◎	(引用)Se11 10.05
110	サンコウチョウ	◎	○	◎	○	○		◎	(観察)WT23.08写真
111	チゴモズ	○						◎	
112	アカモズ	○		◎				◎	
	亜種シマアカモズ			◎				◎	
	亜種カラアカモズ			◎				◎	日本鳥類目録【改訂第8版】からは除外
	亜種不明アカモズ							◎	
113	モズ	○		◎				◎	(引用)Kk87 66.03
114	ハシブトガラス	○	○	◎	○	○	◎	◎	
115	キレンジャク								(引用)Kk87 65月不明
116	ヒレンジャク			◎				○	
117	ヤマガラ			◎	○			○	(引用)Se11 04.05営巢中確認 ; 17.04声録音
118	ヒバリ	○							(引用)Sa91 88.03
119	ヒメコウテンシ			◎					
120	ヒヨドリ	◎	○	◎	○	○	◎	◎	

表1 悪石島で記録された鳥類

種番号	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	備考欄 (引用文献, 観察者など)
121	ショウドウツバメ	○		◎					(引用)Se11年不明 05と年不明09
122	リュウキュウツバメ	○							(引用)Se11 96.08
123	ツバメ	○	○	◎	○	○	◎	◎	
	亜種アカハラツバメ			◎				◎	
124	イワツバメ	○					○		(引用)Kk87 66.03と66.05;(引用)Se11 04.05
125	コシアカツバメ	○		◎			◎	◎	
126	ウグイス	◎	○	◎	◎	○	○	◎	
127	ヤブサメ			◎					(引用)Se11 96.04
128	キマユムシクイ							◎	(引用)Se11 96.09と04.05; 25.05声録音
129	カラフトムジセッカ							◎	25.05声録音
130	センダイムシクイ			○					
131	イイジマムシクイ	◎	○	◎				◎	77.06声録音 以後多数録音
132	エゾムシクイ	○							
133	アムールムシクイ							○	(観察)KG25.05
134	メボソムシクイ								(引用)Se11年不明 05と06
135	オオヨシキリ			◎			○	○	
136	セッカ	○	○	○	○	◎	○	◎	
137	メジロ	○	○	◎	○	○	◎	○	
138	クイタダキ	○							(引用)Kk87 75.11;(引用)Se11 96月不明
139	ミンサザイ								(引用)Se11 96 03と11
140	ギンムクドリ		○	◎				◎	
141	ムクドリ	○	○	◎			◎	◎	
142	コムクドリ	○	○	◎			◎	◎	
143	カラムクドリ			◎			◎	◎	
144	バライロムクドリ						◎		
145	ホシムクドリ			◎			◎	◎	
146	トラツグミ	○		◎			○		(引用)Kk87 75 04と11; (観察)AK21.09写真
147	マミジロ	○							(引用)Ky75 66.03
148	クロウタドリ			◎					(観察)AK10.04と24.03写真
149	クロツグミ			◎					(引用)Kk87 66 月不明; 19.04 雌落鳥
150	カラアカハラ			◎			○		
151	マミチャジナイ			◎					(引用)Se11 96.11と04.05
152	シロハラ	○	○	◎			○	○	
153	アカハラ	○	○	◎				○	(引用)Kk87 63.03と75.04;(引用)Se11 04.05
154	アカコッコ	◎	○	◎	○	◎		◎	77.06声録音 以後多数声録音
155	ツグミ	○		◎			○		(引用)Kk87 75 04と10
156	ハチジョウツグミ	○		○					(引用)Kk87 75.04
157	エゾビタキ	○	○	◎			◎	◎	(引用)Kk87 75.10
158	サメビタキ	○		◎			◎	◎	
159	ミヤマヒタキ			○					10.04 14日と15日観察
160	コサメビタキ	○	○	◎			◎	◎	
161	オオルリ	○		◎			○	○	(引用)Kk87 75.04;(引用)Se11 04.09
162	ノゴマ	○		◎					
163	コルリ			◎				○	11.05落鳥写真
164	コマドリ	○							(引用)Se11 96.11
165	アカヒゲ	◎	○	◎	○	◎	○	◎	
166	キビタキ	○	○	◎	○		◎	○	(引用)Kk87 75.04
167	リュウキュウキビタキ					◎			(引用)Se11 03.05; 18.07声録音
168	ムギマキ	○							(引用)Se11 04.05
169	オジロビタキ			◎			○		12.04 声録音

表1 悪石島で記録された鳥類

種番号	種名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	備考欄 (引用文献, 観察者など)
170	ルリビタキ	○		◎				○	(引用)Kk87 75.04
171	ジョウビタキ	○		◎			◎	○	
172	イソヒヨドリ	○	○	◎	○	○	◎	◎	
173	クロノビタキ			◎					(引用)MN16
174	ノビタキ	○	○	◎			◎	◎	(引用)Kk87 75.04
175	スズメ			◎					
176	イワミセキレイ	◎		◎					
177	ツメナガセキレイ	○	○	◎			◎	◎	
	キタツメナガセキレイ		○	◎					
	マミジロツメナガセキレイ		○	◎				◎	
	シベリアツメナガセキレイ		○	◎				◎	日本鳥類目録【改訂第8版】からは除外
	亜種不明ツメナガセキレイ			◎					
178	キガシラセキレイ			◎					
179	キセキレイ	○	○	◎			◎	◎	
180	ハクセキレイ	○	○	◎			◎	◎	
	タイワンハクセキレイ		○	◎				◎	
	ホオジロハクセキレイ	○		◎				◎	
	シベリアハクセキレイ							◎	日本鳥類目録【改訂第8版】からは除外
181	マミジロタヒバリ								(引用)Se11 04.05
182	ビンズイ	○	○	◎			○	◎	
183	ムネアカタヒバリ			◎			◎	◎	
184	タヒバリ	○	○	◎			○		(引用)Kk87 66.03と75.04
185	アトリ	○	○	◎			◎	◎	(引用)Kk87 75 04と11
186	シメ	○							(引用)Se11 66 月不明;(引用)Kk87 75 04と10
187	コイカル	○		◎					
188	イカル	○						○	
189	アカマシコ						◎		
190	オオマシコ								(引用)Ty99 92.03 (観察)TT写真
191	カワラヒワ	○					○		(引用)Kk87 66.03;(引用)Se11 02.08
	亜種オオカワラヒワ								(引用)Ye75 75 04と10
192	ベニヒワ	○		◎					
193	イスカ								(引用)Kk87 75.11
194	マヒワ	○	○	◎					(引用)Kk87 75.11; (観察)WT23.10写真
195	ホオジロ	○							(引用)Se11年不明12
196	シロハラホオジロ		○	◎				○	
197	ホオアカ			○			○	○	
198	コホオアカ		○	◎			◎	◎	(引用)Se11 96.05
199	キマユホオジロ	○	○	◎				◎	(引用)Se11 04.05
200	カシラダカ	○		◎			○	○	(引用)Kk87 75.10
201	ミヤマホオジロ	○		◎				○	(引用)Kk87 75.04
202	シマアオジ	◎	○					◎	(引用)YK78
203	シマノジコ			◎				◎	(引用)Se11 04.05
204	ノジコ		○	◎				◎	(引用)Se11 96 月不明
205	シベリアアオジ			◎			◎	◎	
206	アオジ	○	○	◎			○	○	(引用)Kk87 75.04
207	クロジ	○							
208	シベリアジュリン	○							
209	キガシラシトド			◎					(引用)MN11

Plate 1 悪石島で記録された鳥類



オシドリ 2015.10.15
秋に時々、渡りの途中に立ち寄る。



カラスバト 2012.05.16
少数が繁殖している。牛のような声で鳴く。



ベニバト 2017.04.13
春に学校のグラウンドなどにやって来る。



ムナグロ 2017.05.13
主に春4月、5月島の西側の牧場に訪れる。



エリマキシギ 2013.10.31
1回だけの観察。雄と雌のペアで来ていた。



ミゾゴイ 2017.04.13
絶滅危惧II類の鳥だがほぼ毎年やって来る。



アカガシラサギ 2024.05.11
春に定期的に訪れるが、ときには秋にも来る。



アカハラダカ 2015.10.15
秋の渡り時期に来るが、大群で来ることもある。

Plate 2 悪石島で記録された鳥類



サシバ 2015.04.16
春や秋に毎年来る。越冬する個体もいる。



ヤツガシラ 2015.03.21
春告げ鳥で、ほぼ毎年渡って来る。



ブッポウソウ 2012.05.10
不定期に5月頃に渡って来る。



チゴモズ 2024.05.14
絶滅危惧 A 類の鳥で近年数が激減している。



カラムクドリ 2015.04.17
春に牧場などで単独でいる姿を観察できる。



バライロムクドリ 2014.10.15
日本には稀な迷鳥としてやって来る。



クロウタドリ 2012.04.19
グラウンドなどに、春にたまにやって来る。



クロツグミ 2016.04.15
4月のころ不定期に渡って来る。

Plate 3 悪石島で記録された鳥類



アカコッコ 2018.07.15
日本の固有種で照葉樹林や竹林で繁殖する。



オオルリ 2014.04.16
主に春に見られるが、秋に見ることもある。



アカヒゲ 2016.04.16
繁殖する代表的な鳥で、鳴き声が素晴らしい。



キビタキ 2019.04.11
4月に来るが、年によって数にばらつきがある。



クロノビタキ 2016.04.14
九州初記録となった迷鳥である。



イワミセキレイ 2014.04.22
以前は秋に観察していたが見る機会が減った。



キガシラセキレイ 2017.04.12
グラウンドで見つけ、3回目の観察となった。



ムネアカタヒバリ 2012.04.17
牧場やグラウンドでエサを探すことが多い。

Plate 4 悪石島で記録された鳥類



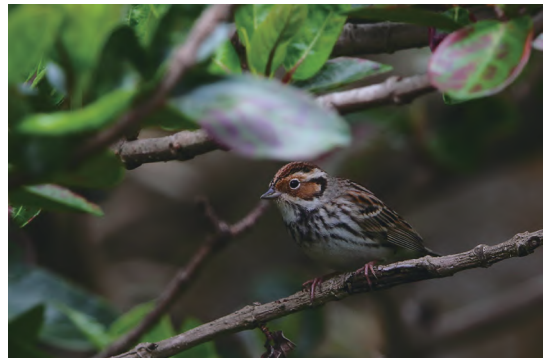
アカマシコ 2014.10.17
数少ない旅鳥として記録されている。



ベニヒワ 2015.04.18
学校の中庭で38年ぶりに観察・撮影した。



シロハラホオジロ 2012.04.18
4月、5月に地上や低木で見ることが多い。



コホオアカ 2019.04.11
ほぼ毎年、春や秋に観察できる。



ミヤマホオジロ 2017.04.12
冬鳥として渡って来て、4月には渡去する。



シマアオジ 2025.05.07
24年ぶりに学校のグラウンドで観察した。



シマノジコ 2024.05.13
いずれも5月に観察している。



キガシラシトド 2011.05.12
北米で生活する鳥が迷い込んだ。